

J. Michael

バスクラリネット



取扱説明書

安全上のご注意	2
ご用意いただくもの	2
各部名称	3
組み立て前に	4
演奏前の準備	5~11
1. マウスピースのセッティング	5
2. 本体の組み立て	6~9
3. 楽器の構え方	10
4. チューニング	11
5. 楽器の置き方	11

演奏後のお手入れ	12~17
1. 本体のお手入れ	12~14
2. ネックとマウスピースのお手入れ	15
3. タンポのお手入れ	16
4. 楽器表面のお手入れ	17
バスクラリネットのよくある質問	18~19

この度は、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、製品の性質等を十分にご理解いただきますようお願いいたします。



安全上のご注意

- オイルや小さな部品類をお子様が口にしないよう、ご注意ください。
- ぶついたり、落下や転倒によって変形する恐れがあります。外観を損なうだけでなく、演奏に支障をきたす恐れがあります。取り扱いには十分ご注意ください。
- 楽器を火気に近づけないでください。火災やけがの原因となることがあります。
- 楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。
- 調整、修理が出来なくなる恐れがありますので改造はおやめください。保証の対象外となります。
- やむを得ず先端が尖った部位がございます。取り扱いの際には十分ご注意ください。

ご用意いただくもの

必要なもの

- コルクグリス 接合部に塗ることで抜き差ししやすくなります。
- スワブ 管内にたまった水分を取り除きます。
- クリーニングクロス 管体表面の汚れを拭きます。
- クリーニングペーパー タンポとトーンホールの間にたまった水分を取り除きます。
- ガーゼ 水分やグリスを拭き取ります。

あったら便利な用品

- リードケース リードを保管し保護します。

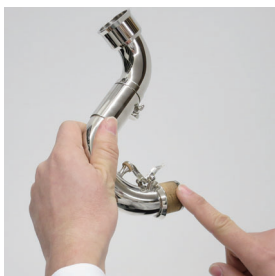
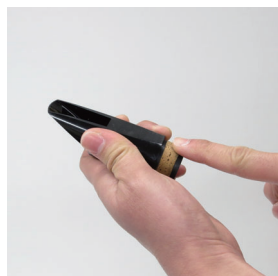
各部名称





組み立て前に

- 管体の組み立て時・分解時には、キイに無理な力がかからないよう、十分に注意してください。
- キイに無理な力がかかってキイが曲がると、急に鳴りが悪くなったり、音が出なくなることもあります。取扱いには十分に気を付けましょう。
- 管体の材質の特性上、冬季など楽器が冷えている場合、キイが動かなくなる可能性があります。楽器全体が室温に慣れてから、吹奏を開始してください。
- 新品を最初に組み立てる場合など、接合部がきつい場合があります。その場合はコルクグリスを差し込む側のジョイントコルクに塗って差し込みます。それでも固い場合は、受け側にもコルクグリスを塗ります。コルクグリスは多く塗りすぎないように注意しましょう。



- 楽器をケースから取り出す際は、キイやパイプを持たないで下さい。



1 マウスピースのセッティング

1 マウスピースからマウスピースキャップ、リガチャーを外します。

2 マウスピースをネックに差し込みます。ネックレジスターキーに力がかからないよう図の青い部分を握ると良いでしょう。ネックレジスターキーを握ってしまうと故障の原因になり音が出なくなってしまうです。



3 リードを口または水で程よく湿らせます。リガチャーはネジを緩め、マウスピースにはめます。湿らせたリードをリガチャーの上側から差し込みます。



4 リードの先端がマウスピースの上端よりほんの少し下（髪の毛1本分程度）になるようにし、リガチャーのネジを締めて固定します。



5 リードとマウスピースの先端にあたらぬようにマウスピースキャップをはめ、安全な場所へ置きます。



！ 注意!

リードの先端は非常に薄く簡単に割れてしまい、「音が出にくくなる」「音に雑音が入る」などの原因となります。取り扱いには十分ご注意ください。

2 本体の組み立て

1 ベルと下管を組み立てます。

右手にベル、左手に下管を持ちます。

下管はなるべくキイの少ない場所を持ちましょう。

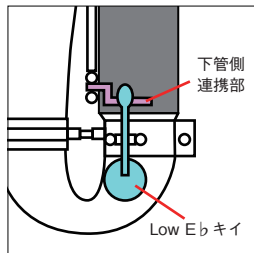


連携部は、LowE \flat キイが下管側のキイの上に乗るように接続します。

その際、キイどうしがぶつからないようにするため、ベルを持つ右手は図のようにLowE \flat キイを押さえるように持ちましょう。



Low E \flat キイ



連携部の図

ベルと下管を左右交互に小刻みに回しながら差し込みます。



ベルの組み立て位置目安

出荷時には、右手で押さえるキイカップの中心に対して、ベルがまっすぐな位置でLowE \flat キイが閉じるように、調整されています。

※ ベルの位置によって、LowE \flat キイの閉じ方が変わるように設計されています。LowE \flat キイが閉じるように、ベルの位置を左右に調整してください。



2 ベルにペグを取り付けます。

出荷時には、ペグの代わりにスペーサーが差し込んであります。

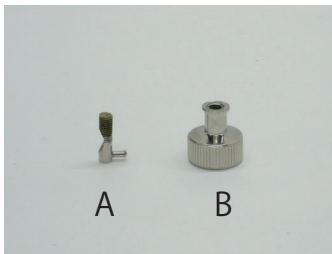
ペグのネジを緩め、スペーサーを抜き取ってペグを差し込みます。

ペグを差し込んだら、ネジを締めて固定しましょう。

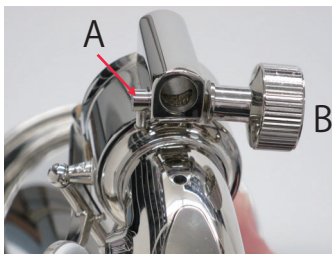


ペグ固定ネジを抜いて分解してしまったら

- 1 ベル本体のほかに2つのパーツがあります。



- 3 差し込んだパーツAにパーツBを組み合せてみます。



- 2 まずベル側にパーツAを差し込みます。その際にベル側にある切れ込みとパーツAの出っ張りが合うように入れます。



- 4 図のようになれば完成です。ケースに収納するには付属のスペーサーを差し込んでください。



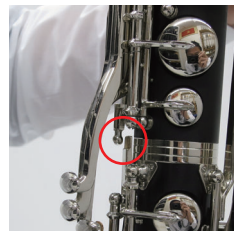
3 下管と上管を組み立てます。

右手に下管、左手に上管を持ちます。連携部のキイどうしがぶつからないようにするため、左手は図のように上管のキイを押さえ連携部を上げてください。

ここを押さえる

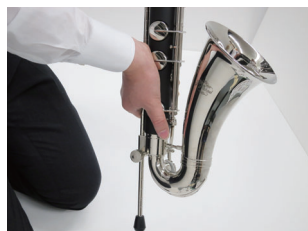


キイを押さえると
連携部が上がる

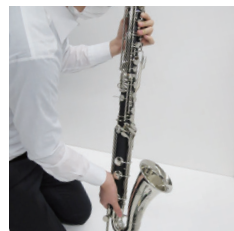
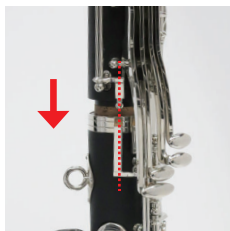


連携部

右手は、ベルを組んだ時と同様に下管のキイの少ない場所を持ちます。



下管と上管を、連携部の位置を確認しながら回さず、真っすぐ差し込みます。

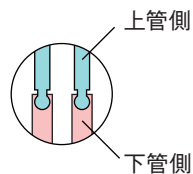
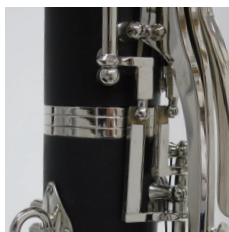


Point!

うまく力が入らない場合は、一度ペグを抜き、ベルをお腹に当てて押し込んでください。



2つの連携部は、上管側の連携部が下管側の連携部の真ん中に乗るように接続します。

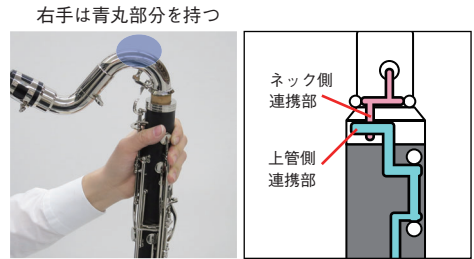


4 ネックと上管を組み立てます。

右手にネック、左手に上管を持ちます。
上管を持つ左手は、なるべくキイの少ない場所を持ちましょう。

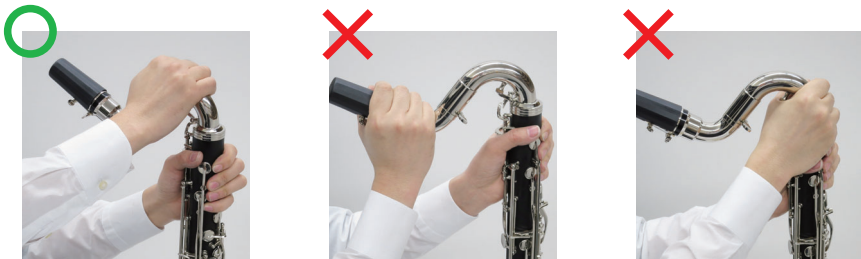
上管側の連携部がネック側の連携部の
上に乗るように接続します。

右手は、図の青い部分(ネックの中央部
分)を持つと良いでしょう。



連携部の図

左右交互に小刻みに回しながら差し込みます。



! 注意!

ネックを上管に差し込む際はネックの先端を持ったり、ネックレジスターキを強く握ったりしないでください。
ネックやキイが曲がり、音が出なくなります。

ネックの組み立て位置目安

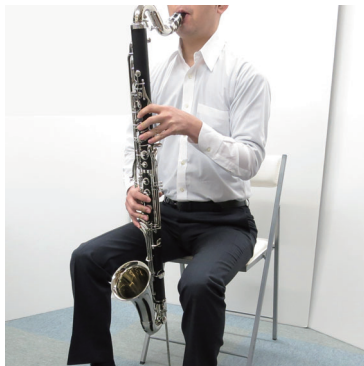
出荷時には、本体正面の中心に対してネックがまっすぐな位置でネックレジスターキが閉じるよう、調整されています。

※ネックの位置によって、ネックレジスターキの閉じ方が変わるように設計されています。ネックレジスターキが閉じるように、ネックの位置を左右に調整してください。



3 楽器の構え方

右手に下管、左手に上管を持ち、体の正面で構えます。

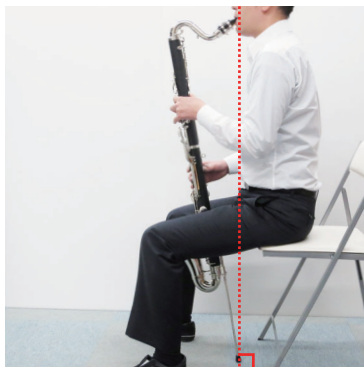


構えた際に口にくわえたマウスピースの位置が高い、もしくは低い場合は、ペグのネジを緩めてペグの長さで調整します。楽器の高さが決まったらネジをしっかりと締めましょう。



マウスピースの前歯が当たる位置が、ペグの接地点の真上になるように意識すると構えやすく安定します。

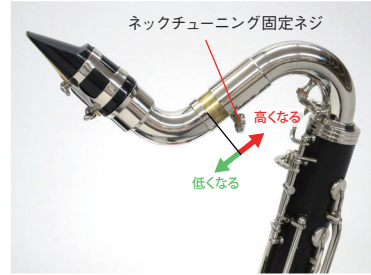
*安定しない場合や、立奏をする場合はネックストラップを使用してください。



4 チューニング

チューニングはネックで行います。

ネックのネジを緩め、マウスピース側の管の抜き具合で調整します。
チューニングが定まったらネジを締めましょう。



※ チューニングは温度の影響を受けやすいので管体を十分に温めてから行ってください。

5 楽器の置き方

なるべくキイの負担にならない向きで置きましょう。

楽器を置く時は、管内にたまった水分をスワブで取り除いてから置いてください。トーンホールに水分がたまり、音が出なくなることがあります。



演奏後のお手入れ

楽器を片付ける際は、下記手順を参考に楽器内部に付いた水分や汚れ、コルクグリスを拭き取ります。

また管体のそれぞれの接合部の差し込む側と、受け側の水分と汚れ、コルクグリスも必ずガーゼで拭き取りましょう。

- ❗ コルクグリスは楽器本体に使用するスワブで拭かないでください。スワブが水分を吸わなくなってしまう。



❗ スワブを使用する時の注意！

スワブは、必ず広げてから使用してください。丸めた（重なった）状態で使うと管の内側で引っかかり抜けなくなります。
スワブが途中で引っかかり抜けなくなった場合は無理に引き抜こうとせず反対側から引き戻してください。
それでも抜けない場合は修理に出しましょう。

1 本体のお手入れ

- 1 ネックストラップを使用している場合は、楽器から外します。
- 2 マウスピースにマウスピースキャップをはめ、ネックを本体から外し安全な場所に置きます。

3 下管と上管を外します。

右手に下管、左手に上管を持ちます。
 連携部のキイどうしがぶつからないようにする
 ため、左手は図のように上管のキイを押さえ
 連携部を上げてください。

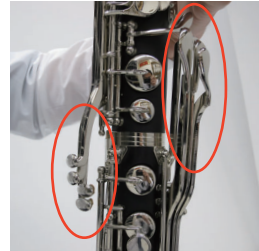


右手は、組み立て時と同様になるべくキイの少
 ない場所を持ちます。



下管と上管を左右交互に
 小刻みに回しながら抜き取
 ります。

右図の丸印のキイどうしが
 ぶつからないよう注意して
 ください。故障の原因にな
 ります。



4 上管にスワブを通します。

上管の内側には金属のチューブが飛び出ているためスワブが特に引っかかりやすい構造
 になっています。万が一引っかった場合に、反対方向から引き戻しやすいので、必ずネ
 ック側からスワブを通してください。

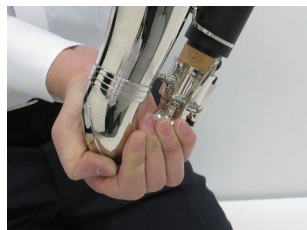


5 ベグ固定ネジを緩めベグを抜き取ります。

ベグを抜いた後は、スペーサーを差し込んで、ネジを締めなおきましょう。

6 下管とベルを外します。

右手でベル、左手で下管を持ちます。その際、キイどうしがぶつからないようにするため、ベルを持つ右手は図のようにLowE♭キイを押さえるように持ちましょう。



下管は組み立て時と同様に、なるべくキイの少ない場所を持ちましょう。



ベルと下管を左右交互に小刻みに回しながら抜き取ります。



7 下管とベルにスワブを通します。



2 ネックとマウスピースのお手入れ

1 マウスピースからマウスピースキャップ、リガチャー、リードを外します。
リードは表面の水分を拭き取ります。リードケースがある場合はリードケースに収納しましょう。

2 マウスピースをネックから外します。

注意!

組み立て時と同様にネックレジスターキーに力がかからないように持ちましょう。
ネックレジスターキーを握ってしまうと故障の原因になり音が出なくなってしまいます。



3 マウスピースの水分とコルク部に残っているグリスをガーゼで拭き取ります。

4 リガチャーとキャップをはめ、ケースに納めます。

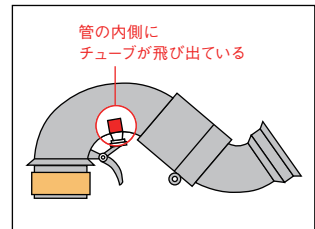
注意! リードが付いていない状態でリガチャーのネジを締めすぎるとリガチャーが変形する恐れがありますので気を付けましょう。

5 ネックにスワブを通します。
ネックのネジを緩め、マウスピース側と上管側に分解します。それぞれの接合部の水分と汚れをガーゼで拭き取り、スワブを通します。

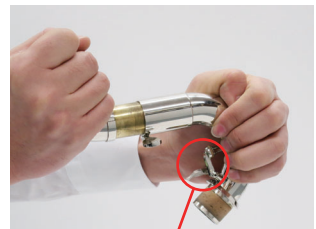


注意!

ネックの上管側には、上管と同様、内側に金属のチューブが飛び出しています。スワブを通す際は、引っ掛からないよう注意してください。



6 分解したネックを組み直し、ネジを締めてケースに納めます。



ネックレジスターキー
○ 握らない

3 タンポのお手入れ

！ 注意！

演奏後は、タンポとトーンホール間の水分をできるだけ取り除きましょう。
タンポは水分の影響を受けやすいため、メンテナンスを怠ると劣化の原因になります。

タンポとトーンホール間に残っている水分を取り除きます。

キイを開き、クリーニングペーパーを挟みます。
もう一度キイを開き、クリーニングペーパーを抜き取ります。
一度で水分を取り除けない場合は、乾いた部分を使用し数回繰り返します。



注意！

キイを閉じた状態でクリーニングペーパーを引き抜かないでください。クリーニングペーパーが破れて取れなくなったり、タンポの表面が傷む原因になります。

特にクローズドキイは水分がたまりやすいので注意して下さい。
ネックに近いキイほど水分がたまりやすいのでチェックしましょう。

オープンキイ（常に開いているキイ）




トーンホール

クローズドキイ（常に閉じているキイ）

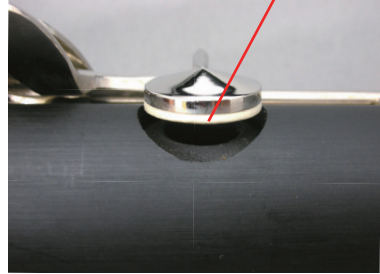



4 楽器表面のお手入れ

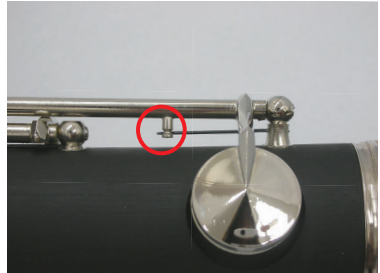
クリーニングクロスで本体の汚れを拭き取りましょう。


注意!  タンポの側面にクロスが当たらないよう注意してください。タンポが傷む原因になります。

タンポの側面



注意!  バネの先端が尖っているため、けがをしないよう注意してください。



注意!  クロスにバネやコルクが引っかかり外れてしまうことがあるので、拭き取る際は注意してください。

保管上の注意

- ・ ケースに納めた状態で保管しましょう。
- ・ 車の中など高温になりやすい場所や、湿度が極端に高い場所では保管しないでください。
- ・ ケースを倒したり、ぶつけるなど強い衝撃が加わると中の楽器が壊れる場合があります。
- ・ カビの発生やタンポの虫食いを防止するため、長期間楽器を使用しない場合はケース内に乾燥剤を入れることをお勧めします。



バスクラリネットの

よくある質問

マイケルくんの管楽器 Q&A



楽器が壊れちゃったかも?!
こんなときはどうしたらいいの?!
あなたの疑問、マイケルくんが解決します☆

音がおかしくなった、出ない音、出にくい音がある

リードの状態はよいですか？

リードが乾燥しているとうまく振動せず、音が出ないことがあります。演奏前には口または水でほどよく濡らせてからマウスピースにセットしましょう。また、休憩のときはマウスピースキャップをしておくとういでしょう。先端が欠けたリードは、音が出にくくなったりノイズの原因になることがあります。

キイ、タンボの状態は正常ですか？

キイのゆがみ、キイどうしのバランスの崩れ、タンボの劣化、コルクの劣化など様々な原因により、タンボがトーンホールをうまくふさいでいない状態になると音が出なくなったり、音抜け、音程が悪くなります。この場合は修理に出しましょう。

穴をきちんとふさげていますか？

バスクラリネットの左手人差し指で押さえるキイ（F#キイ）には、小さな穴が空いています。運指上この穴を空けなければいけない音もありますが、基本的に指で塞ぐ箇所になります。運指に関しては、付属の運指表を確認してください。

トーンホールに水分がたまっていませんか？

吹奏中に急に音が出なくなった場合、トーンホールにたまった水分が原因で起こることがあります。その場合該当するキイを開いて息で水分を飛ばし、クリーニングペーパーで水分を取り除いてください。こまめにスワブを通すことで予防できます。

キイの動きが悪くなった

バネは外れていませんか？

管体にはいくつもの針バネがかかっています。お手入れのときにクロスでひっかけてしまうなど、バネが外れてしまうことがあります。

バネが劣化して折れたり、また、バネが刺さっている支柱の穴が広がって抜けてしまったりすることもあります。この場合は修理に出しましょう。

楽器本体を落としたりぶつけたりしませんでしたか？

キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまつてゆがみが起きたりすると、キイの動きが悪くなる可能性があります。この場合は修理に出しましょう。

ケースの中に楽譜のファイルなどを一緒に入れると、気づかないうちにキイを圧迫し曲がってしまうことがあります。ケース内側の小物入れに収納できる物以外は、入れないでください。

キイを動かすとカチャカチャと異音がする

コルクなどのパーツが
欠損・消耗していませんか？

キイについているコルクが欠損・消耗すると、異音の原因になるだけでなく、キイの開き幅などにも影響し、音程まで悪くなってしまう可能性があります。この場合はパーツ交換が必要なので、修理に出しましょう。

キイが変形して管体や
別のキイに当たっていませんか？

キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまってゆがみが起きたりすると、異音の原因になるだけでなくキイの動作不良にもつながります。この場合は修理に出しましょう。

ネジが緩んでいませんか？

ケースの中に楽譜のファイルなどを一緒にいれると、気づかないうちにキイを圧迫し曲がってしまうことがあります。ケース内側の小物入れに収納できる物以外は、入れないようにしてください。

キイポストのネジが緩んでいる場合は締め直しましょう。バランスネジなど、締めてはいけないネジもあるので注意が必要です。専門知識が必要になることがあるので、修理へ出すことをお勧めします。

キイ（タンポ）がくっつく、ぺたつく

タンポに水分や汚れが
ついていませんか？

演奏後に管内の水分をよく取り除かないと、タンポのぺたつきや劣化の原因となります。管体にスワブを通した後は、クリーニングペーパーなどを使用し、タンポに残った水分をよく取り除きましょう。ネックに近いトーンホールほど水分がたまりやすいです。

組み立てがスムーズにできない

コルクグリスは塗りましたか？

ジョイントがきつい場合 → 使用していくうちに、コルクがなじんでつぶれてくる事を考慮しているので、新品の状態では少しきつめになっています。グリスをコルクに塗ってもきつい場合は、接合部の内側にも少量のグリスを塗ってみましょう。

コルクは劣化していませんか？

ジョイントが緩い場合 → 使用していくとコルクが劣化して、だんだん緩くなります。演奏中に動くほど緩くなる前に、コルク交換の修理に出しましょう。

マウスピースを替えましたか？

付属品以外のマウスピースを使用する場合は、ネックに合わせてコルクの調整が必要な場合もあります。マウスピースと一緒に調整に出しましょう。

スワブが抜けなくなった

スワブは広げて通しましたか？

スワブが丸まったり重なったりしたまま通すと、管内でつまってしまうことがあります。必ず広げてから通すようにしましょう。引っ掛かかったと思ったら無理に引っ張らず、入れた方に戻して抜き、通し直してください。それでも抜けない場合は修理に出しましょう。

修理に出したいのですがどうすればよいですか？

修理依頼の際はご購入いただいた販売店へお持ちください（通信販売等でご購入された場合も、販売店へご連絡ください）。また、弊社ホームページのフォームからも問い合わせいただけます。

保証期間の内外にかかわらず、保証書に所定事項（ご購入日、お名前、ご住所、販売店欄など）をご記入の上、添付していただきます。また、故障内容の詳細を明記し、お手入れ用品などの周辺小物、キイホルダーなどのアクセサリーはお手元で保管してください。有償修理となる場合は、楽器をお預かりの上で見積もりをご案内させていただきます。



輸入総発売元



マックコーポレーション株式会社

〒451-0071 名古屋市西区鳥見町1-18-1
TEL.052-528-5870 FAX.052-528-5878

<http://maccorp.co.jp>